

終電の神様 夜明けの行進(阿川大樹)



手に取ったきっかけ: 三男が読んでいた(子供が読んでいる本を読むのが楽しみになってきた)

主人公は書店に勤め、商店街広報誌の制作を行う女性。突発的な休日、ミュージシャン志望だった過去、老いゆく母親。。モノローグがとてもしっくりくる。

終電...非日常の入口? 若さの象徴でもあるなあ、と思ったり。。

著者の方の経歴(Wikipediaより抜粋):

1976年に東京大学在学中に同じ演劇研究会に所属していた野田秀樹らと劇団夢の遊眠社を旗揚げした。同劇団の専属作曲家になったのち、日本電気、アスキーなど電機メーカーを渡り半導体技術者になった。そして 1989年、半導体関連の企業をほか 6人とアメリカ合衆国カリフォルニア州創立させたが同社は1997年に解散したため、著作活動を再開。